山陰中央新報　2026年10月3日付 朝刊
「亡きペットの毛 アートに」ペットメモリアルアート KEGAMI（株式会社Make A）

亡きペットの毛 アートに

肌触り いつまでも・・・

岩本さん（益田出身）石州和紙使い制作

石州和紙に写した写真にペットの毛を縫い込んだ独自の作品「KEGAMI（ケガミ）」を益田市出身の会社経営者、岩本公輔さん(46)が制作している。飼っていた動物を亡くし、深い悲しみや喪失感を味わう人たちに在りし日を思い出してもらおうと考案し、「かわいがっていたペットの肌触りをいつまでも感じてほしい」と話す。（三浦純一）



「KEGAMI」を紹介する岩本公輔さん＝浜田市内

京都市内でコンサルティングやアート制作などを手がける会社を経営する岩本さんは、ペットを亡くした知人の悲しむ姿を見たのをきっかけに素材などを研究し、独自の製法を編み出して特許を出願した。

福井県や岐阜県など各地の和紙で試作を重ねた結果、「頑丈で水に強く、不思議と自分の手になじんだ」という理由で、浜田市三隅町で作られている石州和紙に決めた。

制作する上で重視するのは飼い主の思い出。よくなでていた場所などを聞き、送ってもらった毛を縫い込む場所を決める際の参考にする。毛は衛生状態を保つための処理をしており、手で触れることができる。

ペットの死により、心身に不調を来す「ペットロス」に陥る人もいる。作品を額に入れ、ペットを亡くした人に贈ると、涙を流して喜ぶケースもあった。こうした体験が制作活動の原動力になっている。和紙の調達などのため定期的に帰郷しており、「自分の作品で世界中の人に感動を届け、石州和紙のPRにもつながればうれしい」と話し、海外展開も見据える。

山陰中央新報社の許諾を得て転載しています。無断転載・複製を禁じます。